

牛群検定通信 No 189

～牛群検定における病気の情報～

人間の世界では花粉症が猛威をふるっています。皆さんも対策をしっかりと払って下さい。今回は牛群検定における病気の情報を再確認してみましょう。

(1) 乳量のチェック

当たり前の話ですが、乳牛は病気になれば必ず乳量を落とします。前月乳量と比較して40%以上減量したときに表示される大きい黒三角マークは、当該牛に異変が生じていることを意味するので個体観察しましょう。

(2) BHB (ベータヒドロキシ酪酸)

乳用牛情報提供システム (Web) により閲覧できる情報です。目安としてBHBが 0.13 mmol/d 以上だと、ケトーシスが疑われます。症状がない場合は栄養が不足していると判断し、飼料給与の改善が必要とされます。

またBHBは酪酸発酵したサイレージを給与した際も高くなる傾向が認められるため、サイレージの品質確認としての意味も併せ持ちます。

(3) 乳房炎

牛群検定においては体細胞数により乳房炎情報を提供しています。体細胞数が283千個以上の牛は乳房炎が疑われます。検定成績表では体細胞数が283千個以上に△マーク、1132千個以上には▲マークを表記し注意を促しています。また、1枚目中央部分の『移動13カ月成績』では、新規の乳房炎罹患頭数や、頭数割合なども表示しています。

乳房炎の牛が多い場合は感染に留意することが必要で、搾乳手袋の交換、ペーパータオルの使用、確実なディッピング、罹患牛の搾乳順番を後にするなど多数の予防策を講じなければなりません。

(4) 繁殖障害

分娩後100日以上経過しても授精の報告が無い場合に、検定成績表に「長期未授精」と表記されます。このような牛は発情が弱く、子宮内膜炎などの繁殖障害となっていることがありますので、個体観察により獣医師に相談する必要があります。また授精回数が5回6回と多い牛も繁殖障害と考えられます。

淘汰予定牛として、故意に授精を行わないときは「C：繁殖に供さない」を正しく報告し、繁殖障害の牛と混同しないように気をつけてください。

(5) 除籍コード

検定成績表の1枚目中央下部に年間での除籍理由一覧が表記されています。「乳房炎」「乳器障害」「繁殖障害」「肢蹄故障」「消化器病」「起立不能」「低能力」「死亡」の区分表示がされており、自身の牛群で、こういった病気が多く発生しているのか、チェックすることができます。

(相原)